



## ひので映画大使最新版

## 第27回映画大使「マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙」

期 日 平成24年3月16日(金)

場 所 ワーナー・マイカル・シネマズ日の出

## 【ストーリー紹介】

英国初の女性首相マーガレット・サッチャーは、その強い信念とリーダーシップで、世界中に影響を与え、「鉄の女」と呼ばれていた。国のために男社会の中で懸命に奮闘するサッチャーだが、彼女にも家族があり、また、知られざる苦悩があった...

本作でアカデミー賞主演女優賞を受賞した、メリル・ストリープの見事な演技が光る！



photo:(C) 2011 Pathe Productions Limited. Channel Four Television Corporation and The British Film Institute.

## 映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。



今回、参加された映画大使の皆さんです！

## ▶ 映画大使の「第一声！」

「鉄の女」と言われたサッチャーさんの信念が伝わった。

メリル・ストリープさんの演技に脱帽！

サッチャー夫妻の絆にも感動した！

## ▶ 映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

ストーリー構成が複雑で展開が速いように思えました。メリル・ストリープさんの演技は非常に良かったです。サッチャーさんのマイナスの部分があまり描かれていなかった感じがしました。フォークランド紛争も違う解決法があったのでは、と思います。ただ、あのリーダーシップは凄いですよね。

Bさん

映画を観てサッチャーさんがどんな人だったか改めて分かりました。今は認知症を患っている事も初めて知りました。演技はとても良かったですね。

Cさん

メリル・ストリープさんの喋り方やセリフ回しなど首相らしく力強かったですね。初めて首相に女性になるっていう事で、男性議員などからのバッシングもある中で、色々な政策を出していく、良いにしろ悪いにしろ、決断を下すというのは凄いプレッシャーとかストレスの中での事だったと思うし、それをやってこられたのは凄い人だというのが分かります。上に立つ人は孤独だと言いますが、男性にしろ女性にしろ、トップに立つっていう方はそういう中で闘ってきたんだなって、思いました。

Dさん

歴史的な事や、政治的な事は難しかったです。'鉄の女'と言われたサッチャーさんをどういう風に描くのかな、って楽し

みでしたが、こういう風に描くのか、と。女性の時代と言われて久しいですが、その先駆けであった時代に男社会で生き抜いて、孤独感とかは凄かったと思います。観ていて、サッチャーさんがホッとするのは、いつも旦那さんと一緒にいる時だったのだなと感じました。それが幻覚の中での旦那さんでも。

Eさん

何故今サッチャーさんの映画かと思いましたが、私達は首相だったサッチャーさんの事しか知らないと思うのですが、サッチャーさんという一人の人間を描きたかったのかなと思いました。家族があって、旦那さんがいて、最後に亡くなった旦那さんの物を片づけて、自分の中で旦那さんの事が整理出来たのでしょうか。その後は一人の人間としてしっかり生きていくのでしょうか。‘強い’というイメージがありますが、実は人間としては皆と同じなんだなと感じました。

Fさん

メリル・ストリープさんの演技、声の出し方など、演技には圧倒されました。11年半に及ぶ‘鉄の女’の信念という部分では、政治はよく分かりませんが、日本の政治家に観せたいと思いました。サッチャーさんなら、日本で首相をやっても、国を変えるんじゃないか、と思いました。凄いカリスマ性がある人ですね。

### 🔍 作品の内容 (印象に残ったシーンなど)

- ・あの旦那さんがいたから、サッチャーさんは首相にまでなれたんでしょうね。内助の功の逆みたいな。
- ・夫デニス役のジム・ブロードベントさんも良かったですね。
- ・庶民から見ると厳しい政策でも、それはすべて英国を良くするためだったし、あのリーダーシップがあったからこそ、11年半という長い在位になったのでしょうか。
- ・あの頃の封建的な男社会の中で、凄い苦勞があったと思いますが、それを乗り越える強い信念があったのでしょうか。
- ・トップがコロコロ変わる日本とは正反対ですね。。
- ・演技もさることながら、メイクも凄かったですね。
- ・とにかく発音、歩き方、風貌など、メリル・ストリープの役作りには脱帽です。この女優さんでなければ出来なかったのでしょうか。

### 🔍 まとめ

‘鉄の女’として知られたサッチャーさんですが、常にイギリス国民の事を考え、たとえその政策によって民に憎まれても、それが民の幸せに繋がるのであれば、という確固たる信念があったという事がよく分かりました。女性でありながら、強いリーダーシップを発揮してきた彼女も、今は認知症と闘っているとの事ですが、こういう女性がいたという事を我々は忘れないでしょう。

➡ [関連ページ: これまでのひので映画大使](#)

➡ [関連ページ: ひので映画大使のトップに戻る](#)

問合わせ先: 教育委員会文化スポーツ課社会教育係  
電話042-597-0511(内線544)

◀ [前のページへ戻る](#) | [ページトップへ](#) ▶